

秋田竿燈まつり

46個のちようちんを吊るした長さ12枚の竿燈(かんとう)最大サイズの「大若(おほわか)」。腕自慢の「差し手」が絶妙なバランスで手のひら、額、肩、腰と、体のあちこぎに移動して重さを調整する。 (毎年8月31、6日、秋田市)



明日に向けてともし希望の光

国内観光の大きな魅力「夏祭り」。今年は新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどが中止を決定している。来年の復活を祈りつつ、応援の意味を込めて全国各地の主な夏祭りを県ごとに数回に分けて紹介する。3回目は秋田県。

紙上で見る「にっぽんの夏祭り」第3回「秋田県」



横手の送り盆まつり

江戸時代の飢饉で亡くなった人々を供養するために始まったとされる。男衆に担がれた屋形舟同士が橋の上でぶつかり合う「屋形舟繰り出し」が見もの。(毎年8月6、15、16日、横手市)

大館大文字まつり

昼の部と夜の部で構成。夜は河畔での花火の打ち上げとともに、山の斜面に「大」の火文字が浮かび上がる。昼は浴衣の市民らが「大文字踊り」を演舞。郷土芸能などパフォーマンスも。(毎年8月中旬、大館市)



本荘川まつり花火大会

全長150%のナイアガラやスターメインなど約6000発の花火が夜空を彩る。清流・子吉川では灯籠流しも行われる。花火とのコントラストが見事。(毎年7月下旬、由利本荘市)

